

健康保険直方中央病院の臨床指標の報告に当たって

<はじめに>

当院における平成18年から平成23年9月までの診療のありのままの姿を「臨床指標」としてまとめ表にしました。病院の大きさ（病床数で判ります）や機能（急性期病院又は慢性期病院）をはじめ、病院が専門とする病気、受診される患者様の内容などが違い、数値だけで他と比較することは出来ませんが、大まかな目安にして頂くとともに当院の素顔をみて頂けたら幸いです。

内容は、1) 病院全体の指標、2) 予防医療に関する指標から、6) 医療安全まで6つの大項目と18の小項目に分けています。各々の項目が、この5年間で少しずつ好ましい方向に向かっております。この事も皆様のご指導、ご指摘を頂き、ご支援の賜と感謝しております。

今後、皆様のご指導、ご指摘を頂き、医療の質の向上に職員一同、日々努めていきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

平成23年12月1日

院長 野田 晏宏

診療情報管理室 岩村 卓也

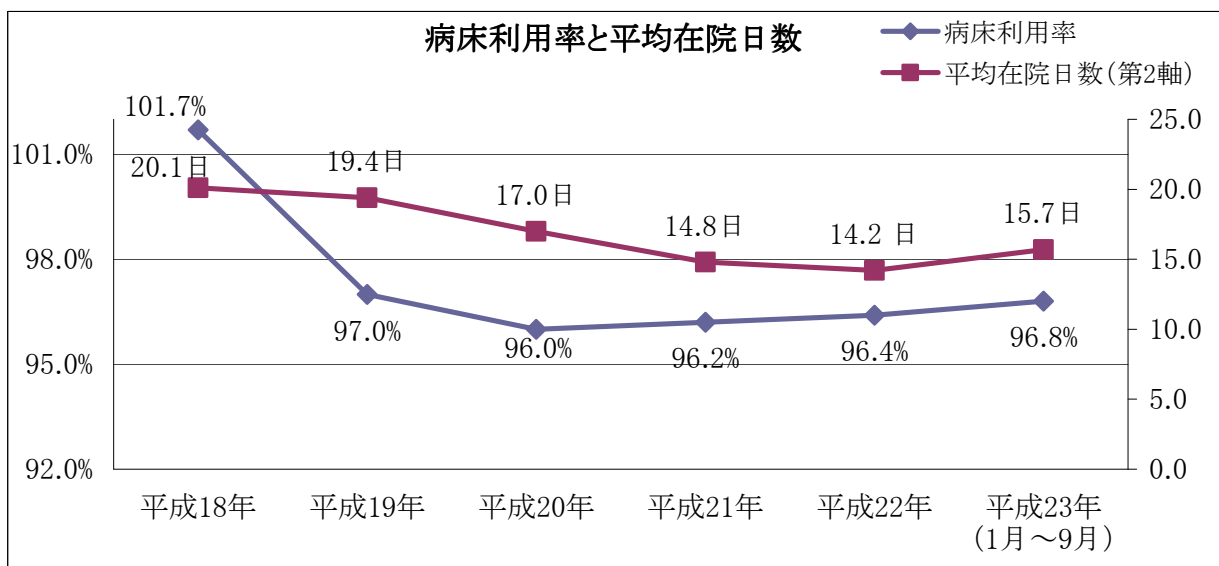
鶴田 貴志

1) 病院全体の指標

<臨床指標の説明>

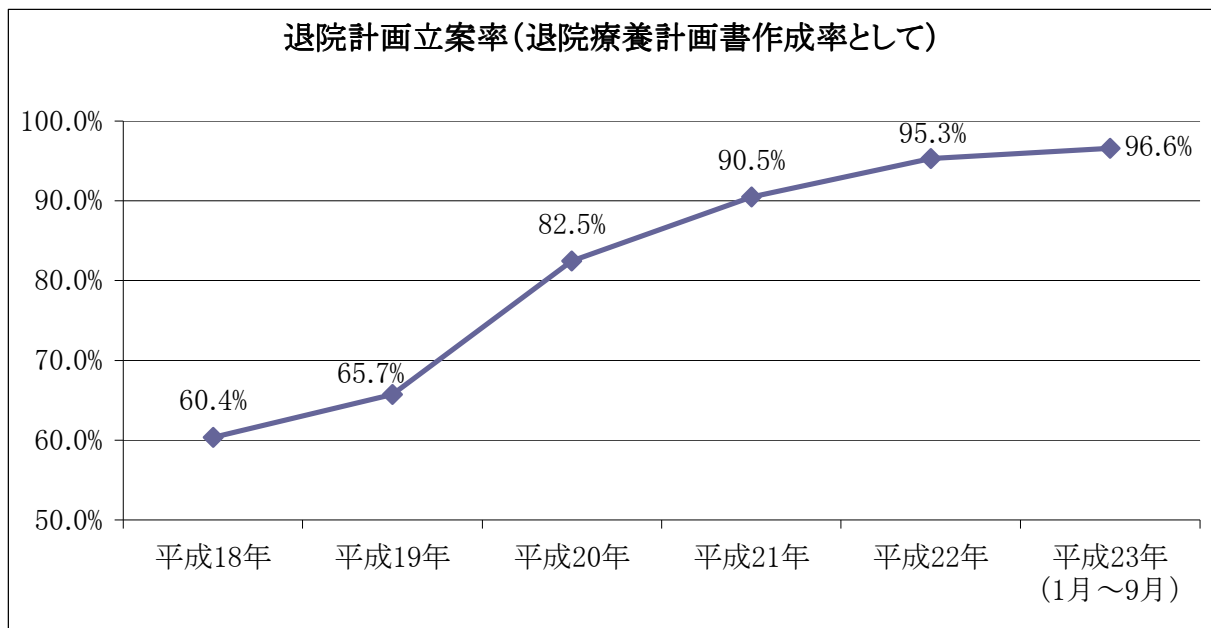
①病床利用率、平均在院日数

病床利用率は入院ベッドが利用された割合を示し、平均在院日数とは、入院された患者さまが何日で退院されたかを示します。平均在院日数が短くなると一般的に病床利用率は下がります。しかしながら当院では、この5年間で平均在院日数が徐々に短くなっていますが、病床利用率は96%~97%を維持しています。この事は当院に入院された患者さまが、多くなってきている事を示します。平成23年も例年とほぼ同様の状況で推移しています。



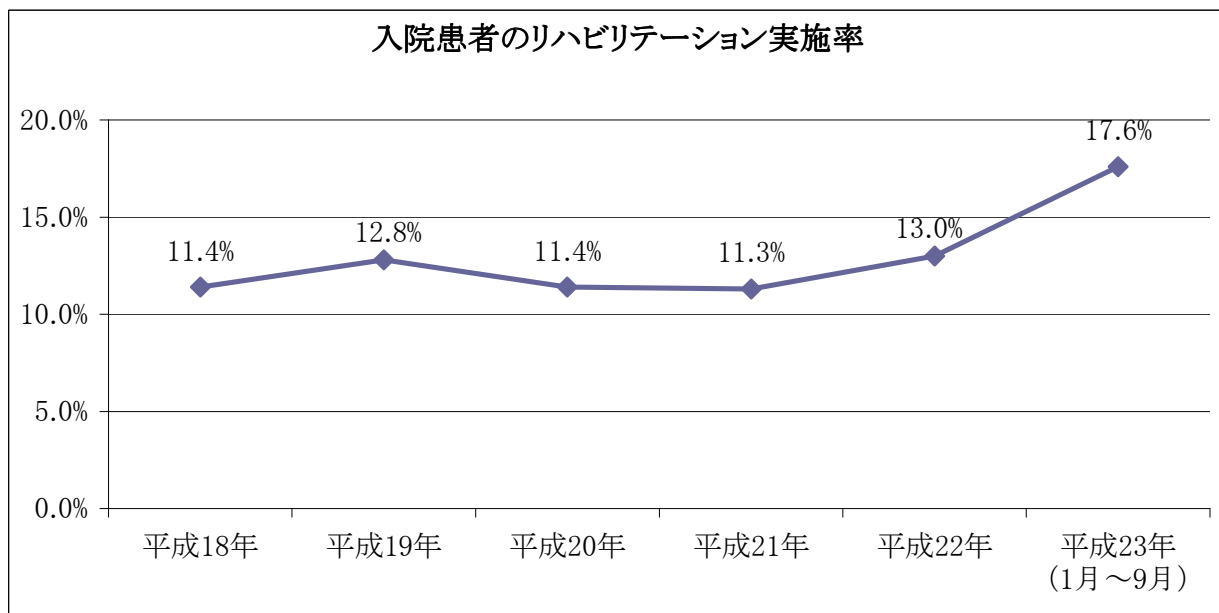
②退院療養計画書作成率

退院療養計画書とは、患者さまが退院後に必要な保健・医療または福祉サービスなど受ける際に必要な書類です。当院では、年々作成率が上昇し、平成23年では約96.6%となっています。この作成率が高いことは、退院後の患者さまの生活まで十分配慮している事を示します。



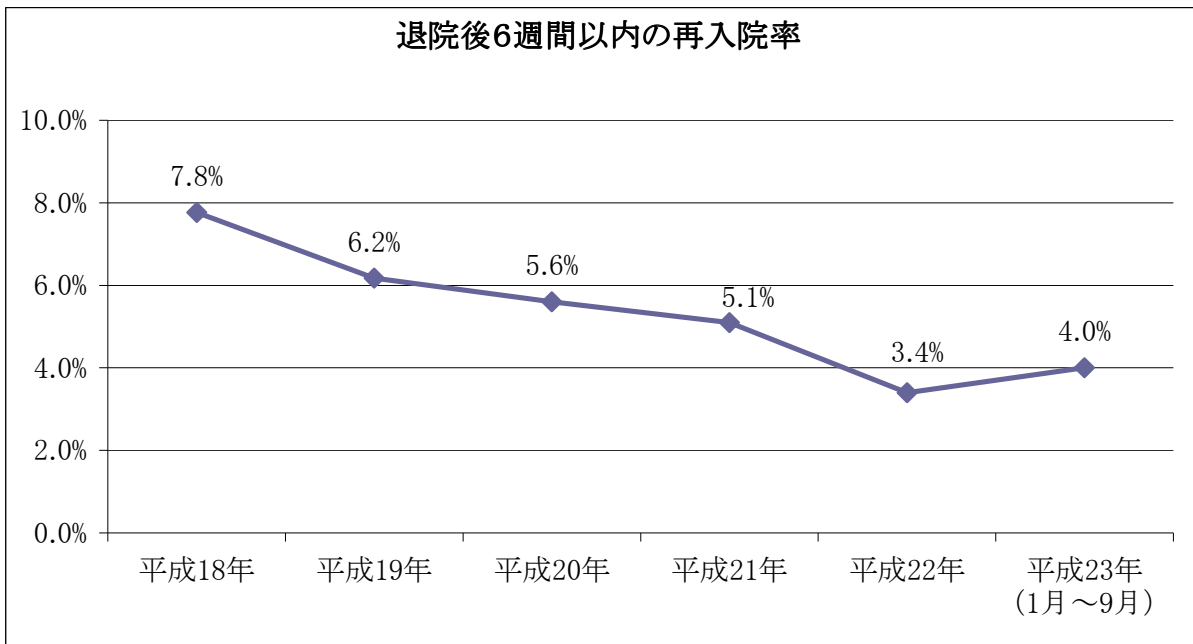
③入院患者のリハビリテーション実施率

リハビリテーションは病気になった早い時期に始めることで、筋力低下や全身の持久力低下等の廃用症候群にならず、早く退院できます。当院は内科疾患の入院患者さまが多く、長期間病床で寝ていることで、廃用症候群の割合が多くなる可能性があります。そのため当院では、早期にリハビリを行うことで、入院患者さまが少しでも廃用症候群にならないようにしています。当院では、平成21年より徐々にリハビリ実施患者さまが増加しています。平成23年度は、理学療法士・作業療法士の人数が増えたことにより、更なるリハビリ実施率の増加が可能となりました。今後はより早くリハビリが出来るよう、取り組み強化をしていきたいと考えています。



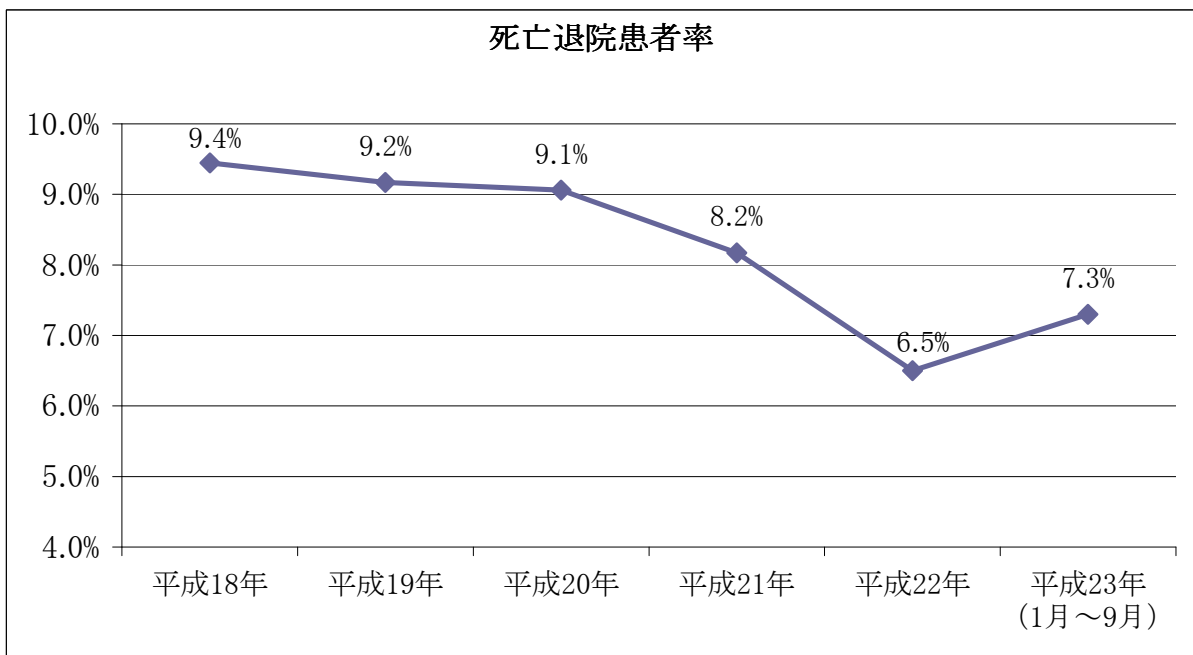
③退院後 6 週間以内の予定外再入院率

短期間での予定外再入院率は医療の質を示す指標の 1 つと考えられ、入院率が低いほど医療の質は上がります。平成 23 年では、入院患者さまが非常に多かったことから再入院率が若干増加しています。



④死亡退院患者率

死亡退院患者数を年間退院患者数で割った率です。病院によって入院される患者さまの重症度が異なる為、数字のみの比較は非常に問題が多く、むしろひとつの病院における毎年の変化に意味があります。平成 23 年では、重症患者さまが比較的にかかった為、死亡退院患者率が若干上昇しました。

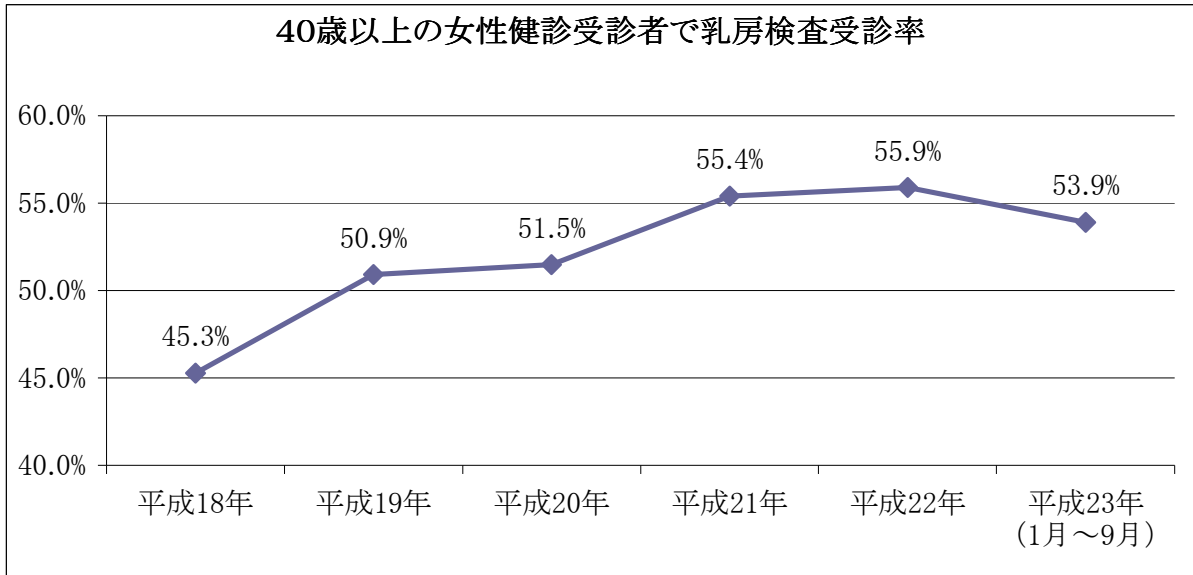


2) 予防医療に関する指標

< 臨床指標の説明 >

① 40歳以上の女性健診受診者における乳房検診受診率

現在、40～50歳代の女性において、乳癌が癌死亡原因の第1位で、大きな社会問題となっております。乳癌健診の受診率を上げることは、医療の質の向上を示します。平成23年では受診率が低下しています。これは4月と5月に対象となる40歳以上の女性健診受診者が少なかったことが影響しています。

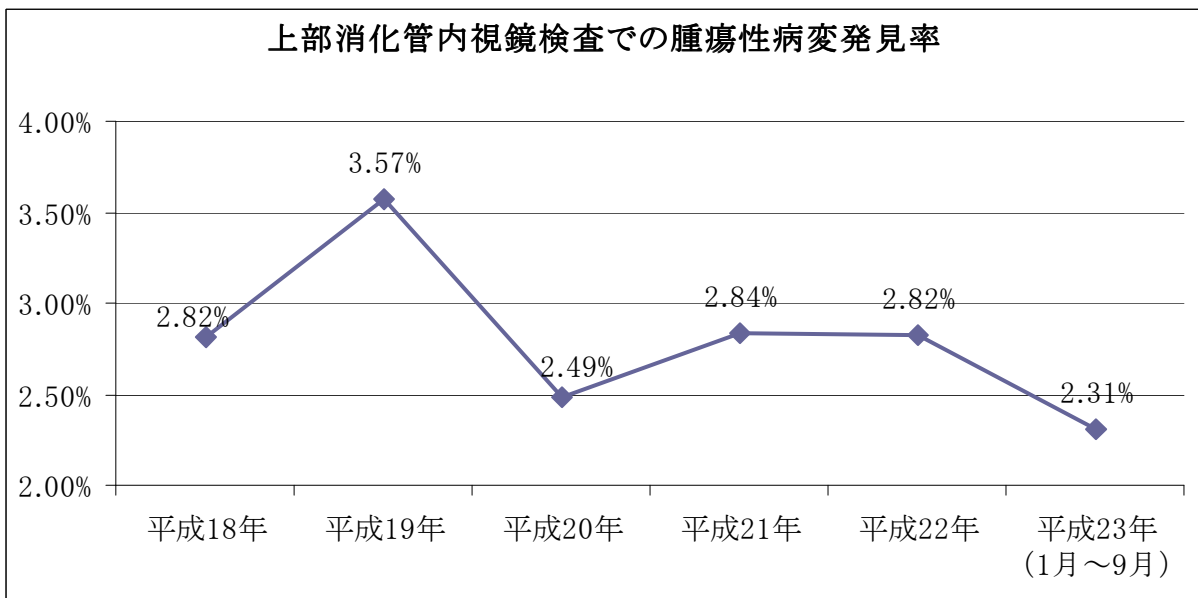


3) 治療手技・手術

< 臨床指標の説明 >

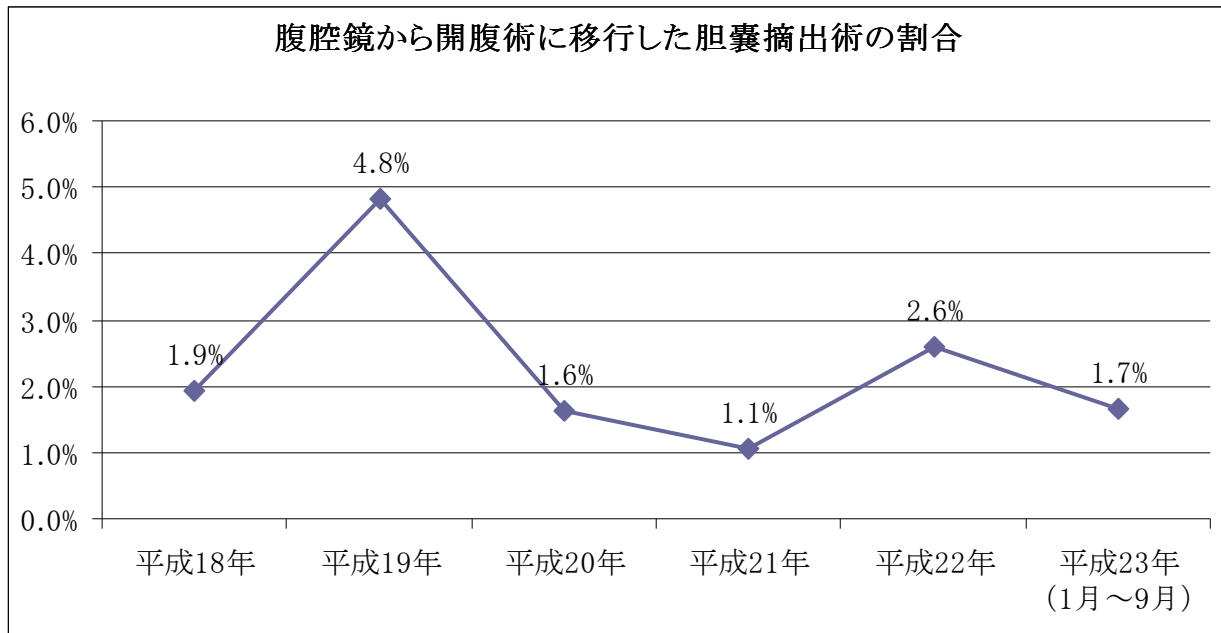
① 上部消化管内視鏡検査（胃内視鏡又はいわゆる胃カメラ）での腫瘍性病変発見率

検査の目的の1つは癌などの腫瘍性病変を早期発見することです。当院では2.5%前後で推移しております。



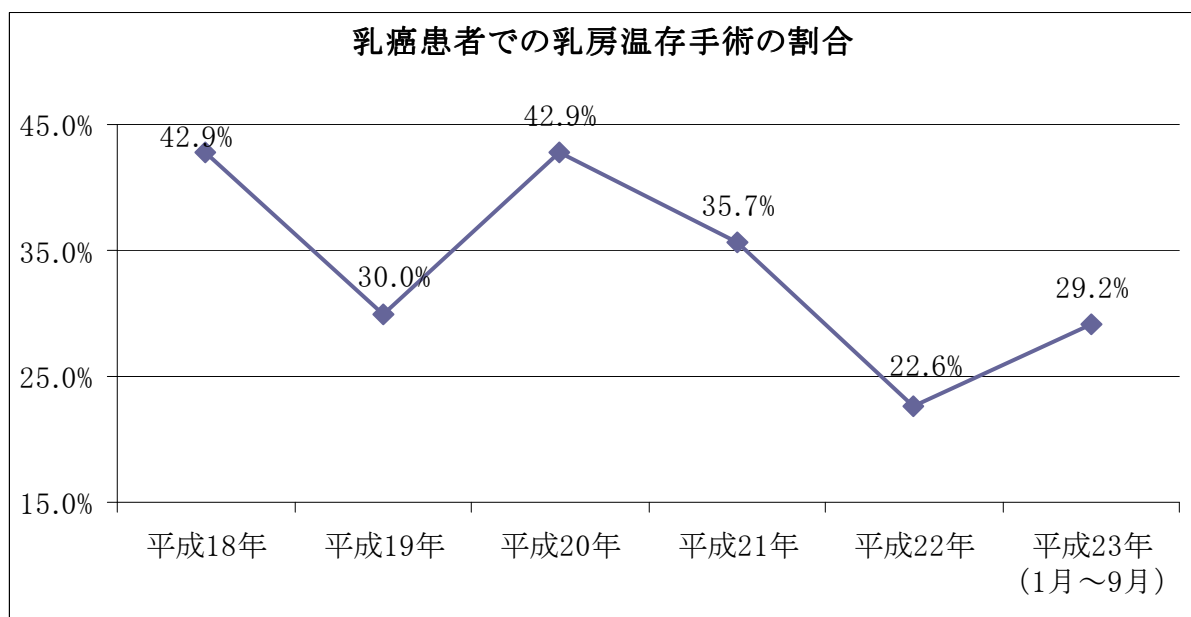
② 腹腔鏡から開腹術に移行した胆のう摘出術の割合

胆のうを取り除く手術の時、お腹をあけずに行なう腹腔鏡下胆嚢摘出術を最初に行ないます。手術の途中で、胆のうが取れない場合はやむを得ず、開腹して胆のうを摘出します。年々割合は減少傾向ですが、平成23年では60件の手術のうち1件で、胆のうの癒着（炎症の為、胆のうが肝臓にこびりつくこと）があり、腹腔鏡下から開腹術に移行しました。



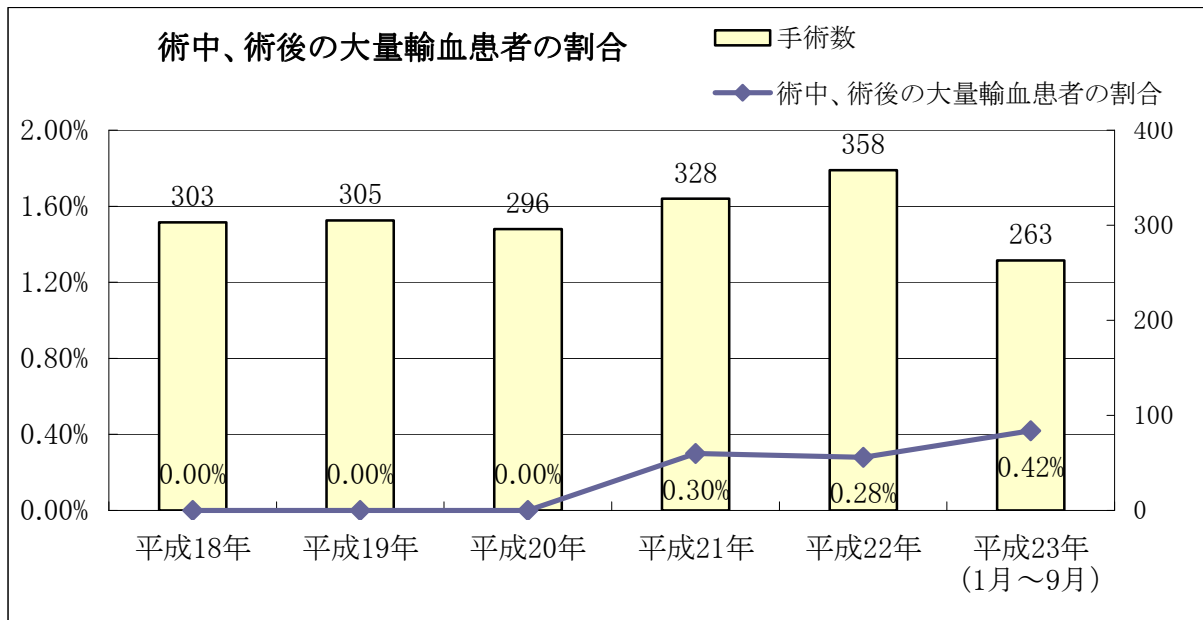
③ 乳癌患者での乳房温存手術の割合

乳房温存療法は、主に3cm以下の早期乳癌の標準的な手術です。平成23年では乳癌手術例数が24件の手術のうち7件で乳房温存手術を実施しました。



④ 術中術後の大量輸血患者の割合

手術日もしくは手術翌日に1日に2400ml以上輸血した患者さまの割合です。輸血は、急性失血時の生命維持に重要な役割を持っています。しかし、肝炎ウイルス感染やエイズウイルス感染などの可能性も併せ持っています。当院では、平成18年以降大量輸血の患者さまはいませんでした。しかし、手術例数が増加しつつある、平成21年以後、毎年1件ずつ（死亡症例0）発生しています。

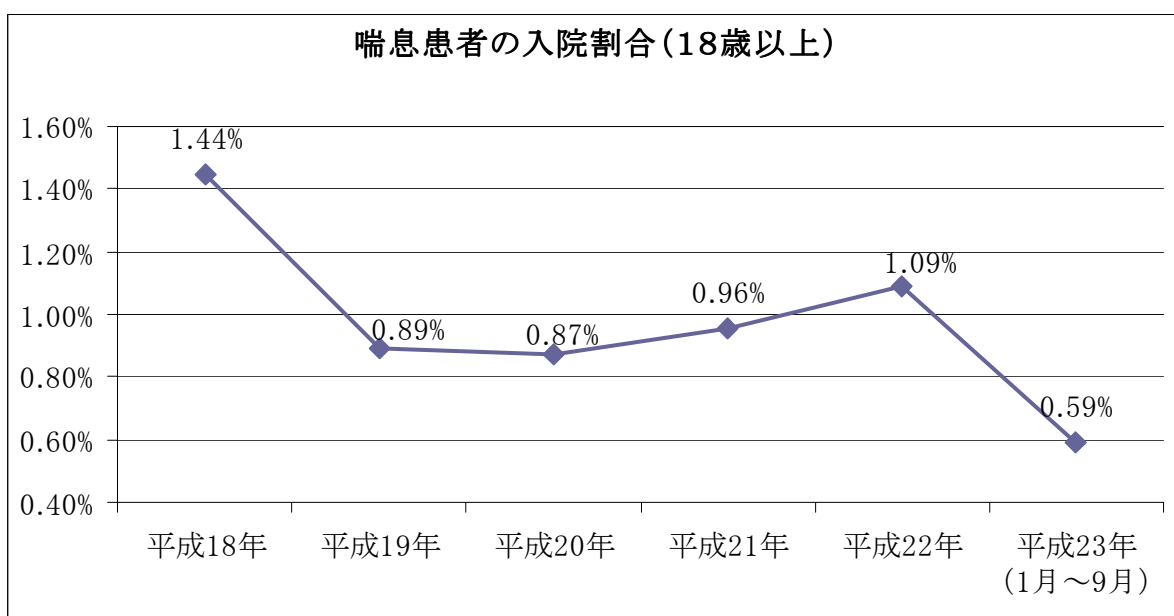


4) 診療経過とその結果に関する指標

< 臨床指標の説明 >

① 喘息患者の入院割合（18歳以上）

当院は喘息患者さまの入院率を減らす為に、喘息発作予防に効果のある吸入治療薬の正しい使い方や、発作の際の対処法、受診の適切な時期などについて指導しています。当院における入院割合は1%前後で推移しています。

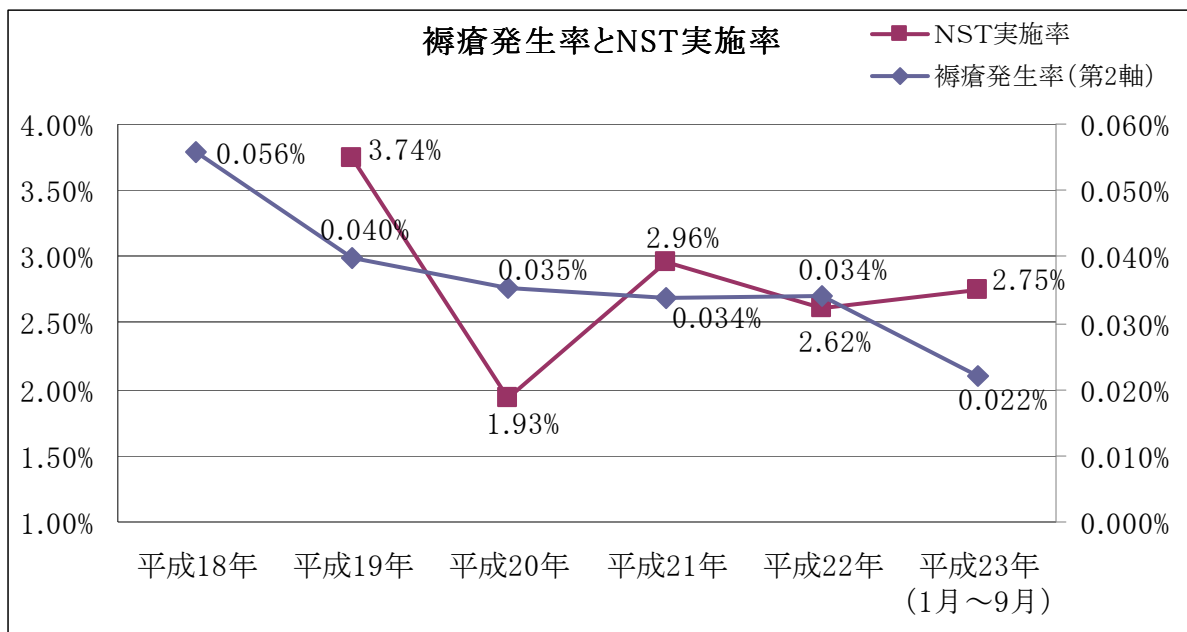


②褥瘡（じょくそう：床ずれ）発生率

褥瘡（床ずれ）の発生率は全身管理が適切であるか、局所の世話などがいき届いているか、看護の質を表す良い指標となります。平成23年では0.022%（一万人中2名）となっています。

③NST実施率

NSTとは栄養支援チームの意味です。NSTの目的は医師、看護師、栄養士、薬剤師等がチームとなり患者さまの栄養状態を改善して抵抗力や免疫力を高めて病気を治療しやすくします。NST実施率は、患者さまの全身管理に病院全体で取り組んでいる事を示します。当院では、平成19年から開始し、平成23年のNST実施率は2.75%となっています。

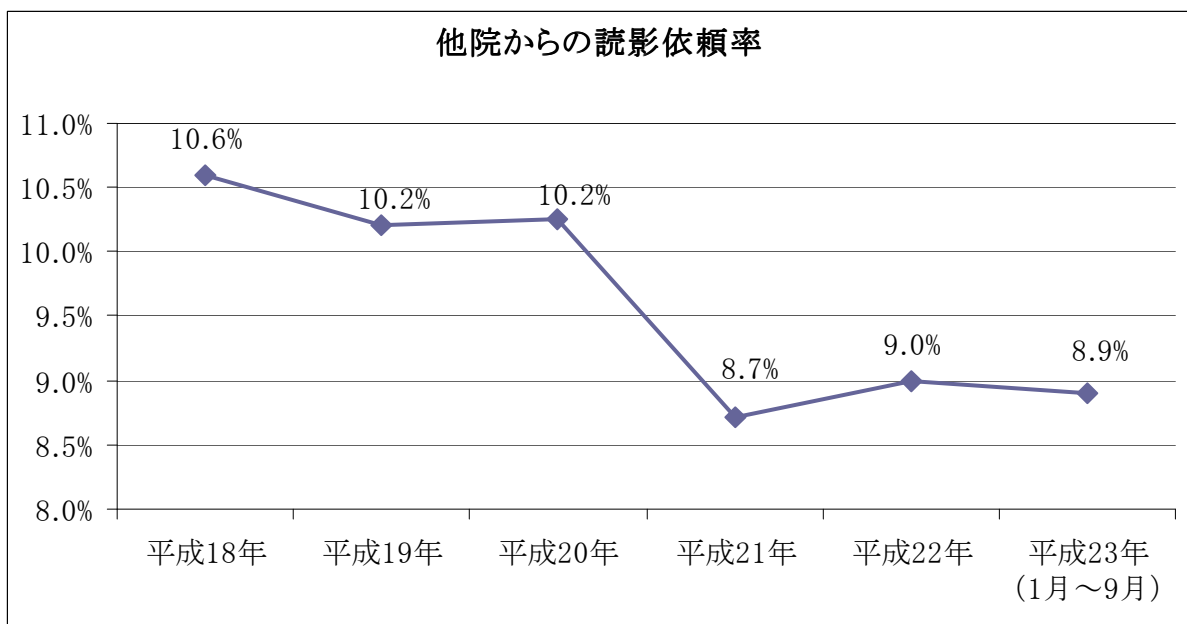


5) 検査

< 臨床指標の説明 >

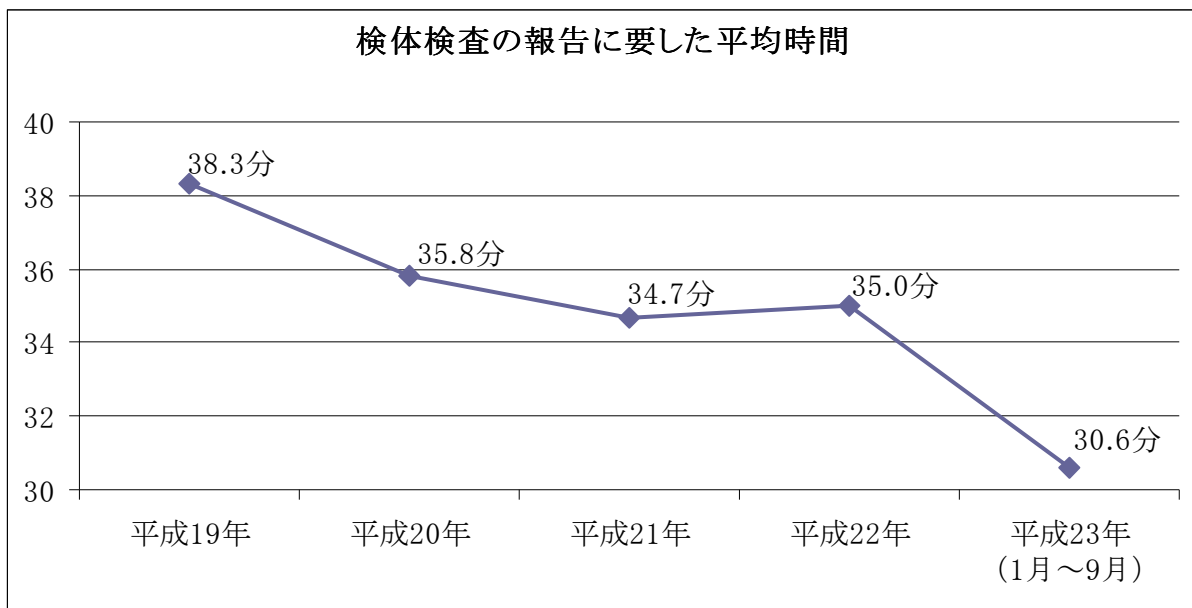
①他院からの読影依頼率

地域医療を担う当院では、他院からの読影依頼の状況が地域医療機関から信頼されている度合いの1つの指標となります。平成23年では、依頼率は若干の減少ですが、外来患者数が増加している為、依頼件数としては大きく増加しております。



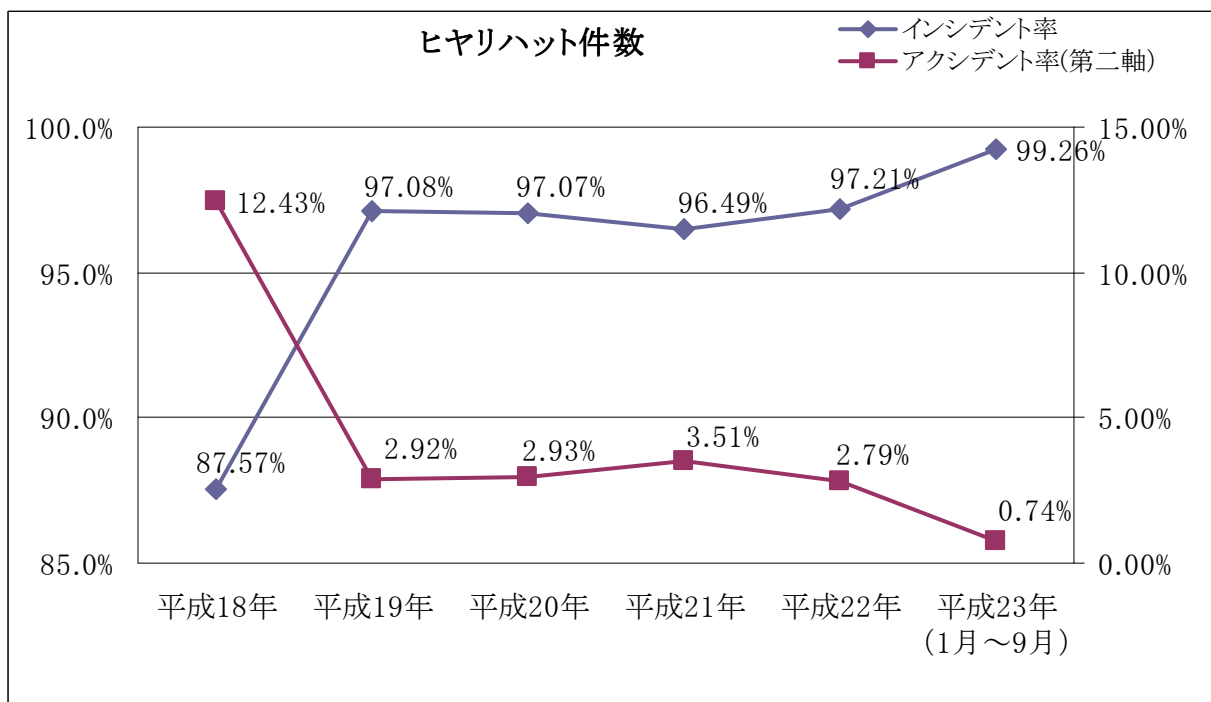
②検体検査の報告に要した平均時間

血液検査結果報告にかかる時間は、診断や治療のスピードや、診察待ち時間に関わる重要な指標です。平成23年では、報告の平均時間が大幅に短縮されております。



6) 医療安全

①ヒヤリハット件数 インシデント率 (医療事故までに至らなかった事例率)、アクシデント率 (医療事故率) 医療事故を予防する方法として、アクシデント手前のインシデントを多数集めて分析し対策を立てます。そしてその対策を職員が実行し医療事故を予防しています。当院ではインシデント率が増え、アクシデント率が少なくなっています。

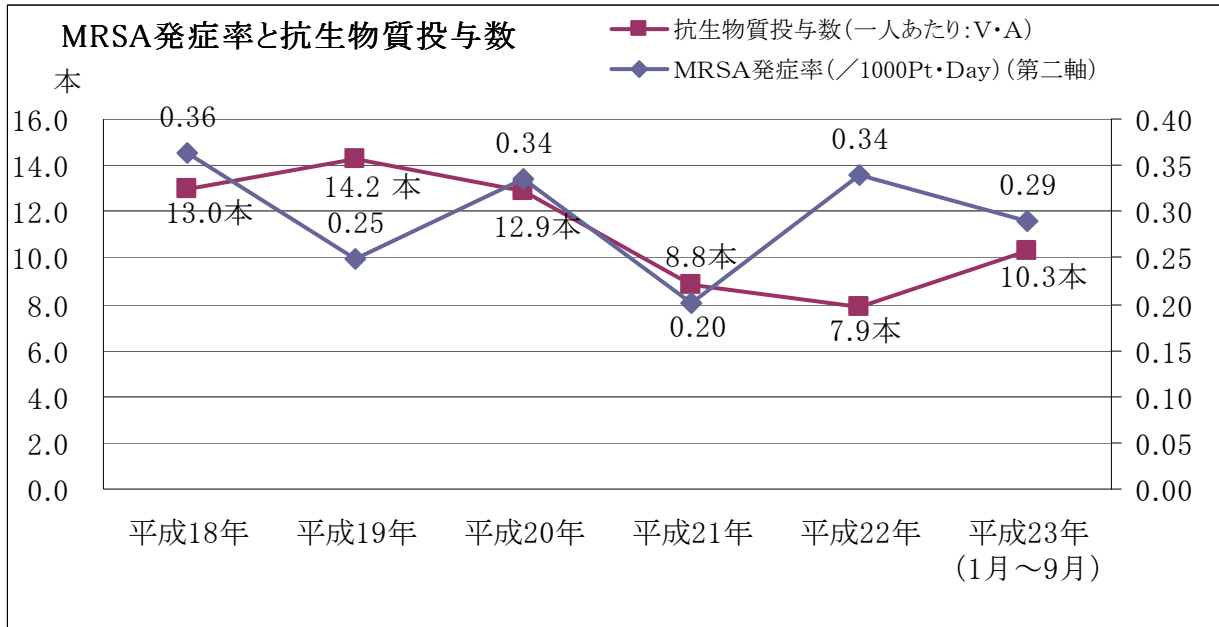


②MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌：抗生物質が効かない細菌の一種）発症率

MRSA 保菌者のほとんどは、入院前から MRSA を持っておられる方々です。これらの方々からの伝染を防ぐ事が MRSA 感染対策また院内感染対策の最も重要な課題です。当院では平成 21 年に 0.20 へ減少しましたが、現在は 0.3%前後で推移しております。

③抗生物質投与数

患者一人当たりの抗生物質投与数を把握する事は、抗生物質耐性菌（薬が効かない細菌）の発生を防ぐ為に重要です。当院では一人当たり 14.2 本（平成 19 年）8.8 本（平成 21）で推移しており、平成 23 年は 10.3 本となっております。



④転倒・転落率

病院内で発生した入院患者さまの転倒・転落の割合と転倒・転落により手術（大腿骨頸部骨折等）が必要となった例数の割合を表しています。転倒・転落を防ぐためには、病院内やベッド周りの整理整頓が重要です。また、職員が転倒予防に対する知識を身につけ看護業務に当たることも必要となります。高齢の患者さまが増加する中、当院では転倒転落をできるだけ少なくするよう努めています。また、万が一転倒・転落が発生しても外傷が少なく済むように、当院ではベッドを低くしたり、マットを使用するなどの工夫をしています。転倒転落により手術が必要となった例は、年間 2 例ほど発生し、平成 23 年（1 月～9 月）では 1 件発生しています。

